

稲作情報



29年産米 総括号

越後さんとう農業協同組合
電話番号(0258)41-2887

★★★★4年連続★★★★

平成30年 1月29日

品質目標達成!! 1等級比率 91.4% (12月末現在)

平成29年産米の作柄は、6月上中旬の低温（分げつ発生の遅れ～茎質低下→一穂粒数の減少）と登熟期間の日照不足（8月中下旬の日照時間：平年比54%→登熟不良）を主要因として大きく減収し、中越地域の作況指数は「91」にとどまり、平成16年産以来の不作となりました。一方、1等級比率は主食用米全体で91.4%（うちコシヒカリ：91.1%、こしいぶき：95.8%）となり4年連続で1等級比率：90%以上の高い品質水準を確保できましたが、依然として地域間・品種間の品質格差が大きい状況となっています。

いよいよ平成30年産米の生産がスタートし、生産調整の見直しから米の産地間競争が一層激化するものと想定されます。「実需が求める多様な米生産」とあわせた「より一層の高品質米生産と安定収量の確保」への取組みにより、「高品質米生産地」として継続的にJA越後さんとう産米のブランド強化を図ることが重要となります。

1. 平成29年産米の品質・作柄概況

(1) 品質の状況（平成29年12月31日現在）

① 種類別の品質状況

▶ 新潟県

種類	1等級比率	前年産(最終)
うるち米	83.4%	83.2%
酒米	83.3%	74.7%
もち米	60.4%	60.5%
県合計	82.2%	81.7%

※ 酒米：特等を含む

② コシヒカリ・こしいぶきの品質状況

▶ 新潟県

品種・地域	1等級比率	前年産(最終)
コシヒカリ	83.3%	82.1%
一般	85.0%	83.8%
魚沼	76.5%	79.2%
岩船	77.4%	74.7%
佐渡	86.2%	76.5%
こしいぶき	85.4%	87.2%

③ 格落理由ワースト5：JA越後さんとう

順位	全品種	コシヒカリ	こしいぶき	前年同期
1位	除青未熟 40.5%	心白粒 37.7%	青未熟粒 44.7%	除青未熟 29.4%
2位	青未熟粒 28.4%	除青未熟 25.4%	背白粒 18.8%	心白粒 21.8%
3位	心白粒 19.1%	青未熟粒 21.6%	除青未熟 18.5%	青未熟粒 15.9%
4位	部分カメ 4.0%	部分カメ 8.2%	部分カメ 8.8%	胴割粒 14.8%
5位	病害粒 2.0%	背白粒 2.0%	肌ずれ 4.4%	部分カメ 9.0%

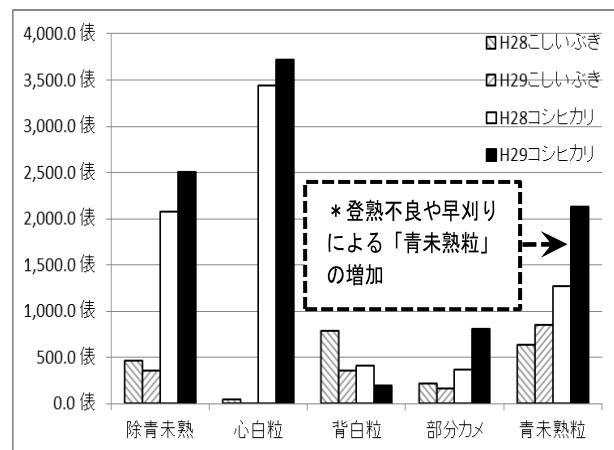
主食用米全体の1等級比率は91.4%、加工用米等を含む出荷米全体の1等級比率は88.2%となりました。

▶ JA越後さんとう

種類	1等級比率	前年産(最終)
うるち米	89.5%	92.6%
酒米	98.4%	98.8%
もち米	89.9%	90.7%
JA合計	91.4%	91.8%

▶ JA越後さんとう

品種・地域	1等級比率	前年産(最終)
コシヒカリ	91.1%	92.7%
寺泊	87.0%	91.2%
和島	88.5%	90.3%
出雲崎	94.8%	94.4%
与板	90.6%	88.9%
三島	90.2%	91.3%
越路	97.6%	98.7%
こしいぶき	95.8%	93.5%

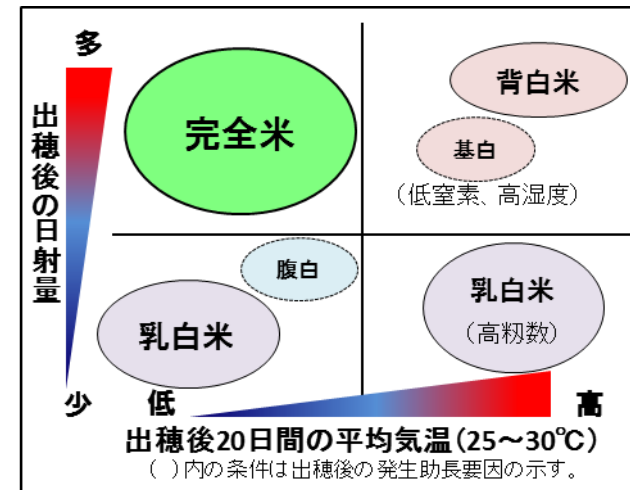


④ 地域別格落理由表：コシヒカリ

【単位：60kg 個（%比率）】

順位	J A 全体	寺泊地域	和島地域	出雲崎地域	与板地域	三島地域	越路地域
1位	心白粒 3,724(37.7%)	心白粒 1,919(41.0%)	心白粒 620(40.2%)	部分カメ 131(28.6%)	心白粒 624(54.9%)	除青未熟 787(54.8%)	除青未熟 337(53.9%)
2位	除青未熟 2,509(25.4%)	青未熟粒 1,137(24.3%)	除青未熟 317(20.6%)	心白粒 120(26.2%)	青未熟粒 414(36.4%)	心白粒 359(25.0%)	胴割粒 85(13.5%)
3位	青未熟粒 2,128(21.6%)	除青未熟 976(20.9%)	部分カメ 255(16.5%)	青未熟粒 101(22.0%)	除青未熟 71(6.2%)	青未熟粒 193(13.4%)	心白粒 83(13.3%)
4位	部分カメ 810(8.2%)	部分カメ 297(6.3%)	青未熟粒 245(15.9%)	胴割粒 67(14.7%)	部分カメ 22(1.9%)	部分カメ 50(3.5%)	部分カメ 57(9.1%)
5位	背白粒 199(2.0%)	背白粒 133(2.8%)	もみ混入 52(3.4%)	除青未熟 23(5.0%)	もみ混入 7(0.6%)	もみ混入 35(2.4%)	青未熟粒 40(6.3%)

⑤ 白未熟粒（乳心白粒）や背白粒の発生要因



▶ 全品種を通じて“生育調節の不徹底”“後期栄養の不足”“登熟期間の日照不足”による充実不足が要因と推察される「除青未熟」による格落ちが全体の約4割を占めている。

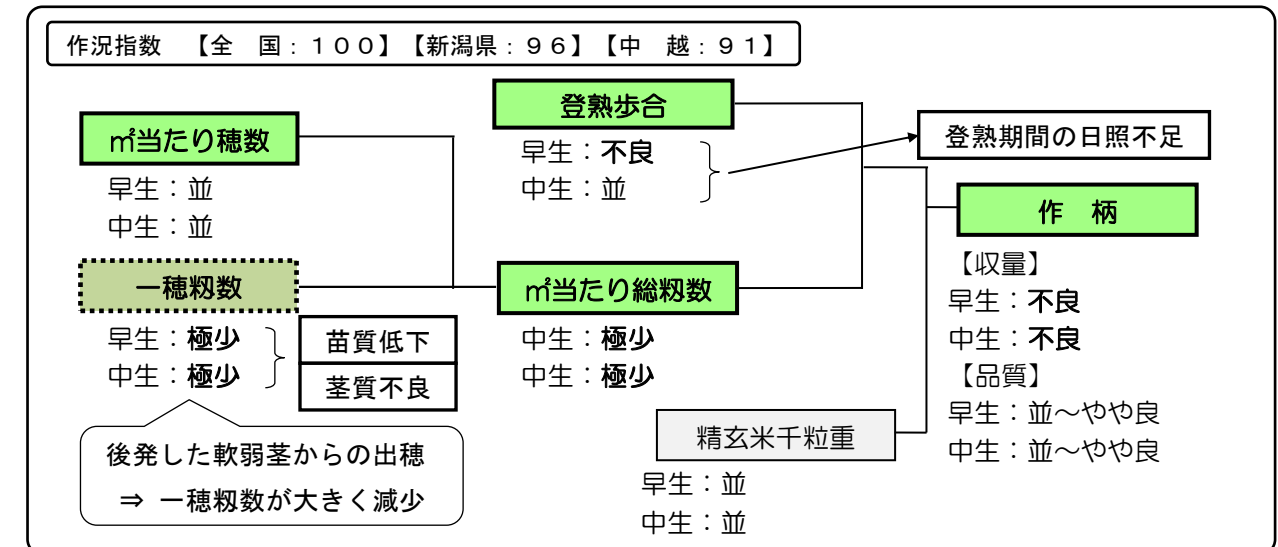
▶ コシヒカリについては、昨年に引き続き「心白粒」が格落ち理由の第1位となっており、こしいぶきについては「青未熟粒」による格落ちが第1位となっている。地域や品種、ほ場条件、栽培管理状況によって品質格差が大きい状況となっている。

(2) 作柄の状況：JA越後さんとう

① コシヒカリの収量構成要素等（管内22調査ほ平均）

年産	m ² 穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒)	m ² 粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)
指標値	360	78.0	28,000	83.0	22.0	510
H29	357	77.5	27,660	82.7	23.2	463
H28	388	82.0	31,800	87.0	22.4	610

② 収量構成要素の概況



裏面を「覽」てね

2. 平成29年産米の品質・作柄要因

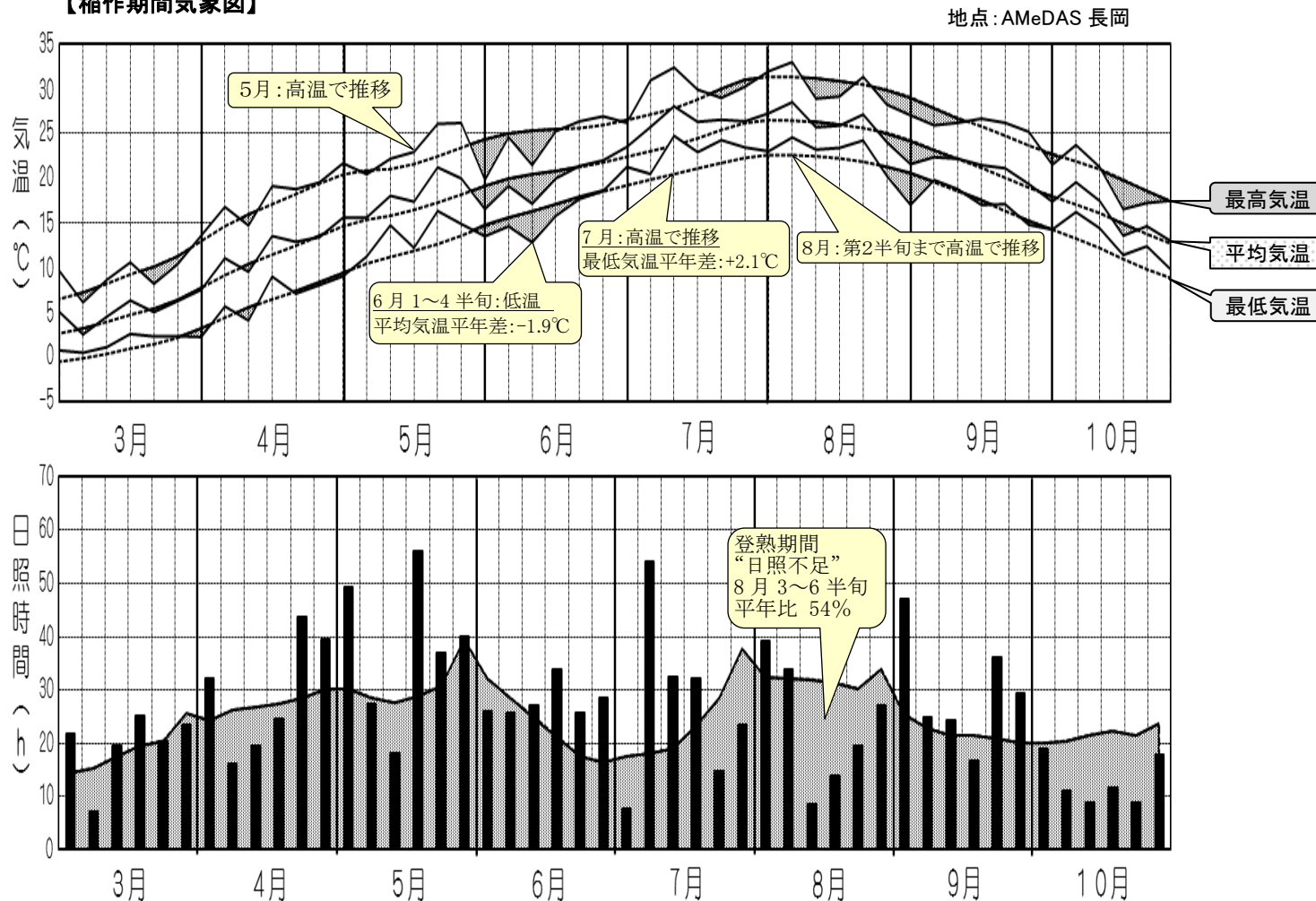
分けつ期～登熟期の気象条件が
作柄・品質に大きく影響しています。



(1) 気象的要因

- **播種～育苗期**：育苗期間の全般を通じて高温・多照の気象傾向が続いたことから、徒長・老化苗が平年より多く見受けられた。→ 苗質：並～やや不良
- **田植期～初期生育**：移植作業は4月末頃からの開始となり、移植期間から5月末まで初期の生育期間を通じて、高温・多照の気象傾向（特に5月の平均日照時間は平年比：123%）となったことから、活着・初期生育は良好となった。→ 活着：並～やや良、初期生育：並～やや良
- **分けつ期**：分けつ発生盛期となる6月上中旬は、頻りに異常低温注意報が発令されるなど気温の低い気象傾向となり、分けつの発生は緩慢となった。6月後半以降の天候回復により、茎数（後発の弱小分けつ）が増加するとともに、7月初旬の高夜温・多雨により草丈が急伸長したことから、茎質不良となり一穂粒数・総粒数の減少につながった。
⇒6月30日のコシヒカリの稲姿… **草丈：短い、茎数：並、葉色：並**
- **幼穂形成期～出穂期**：7月初旬までの高温・多雨により草丈の急伸長と葉の褪色が緩慢となったことから、コシヒカリ1回目の穂肥は、遅め・控えめとなり、その後の天候回復により急激に葉色が低下した。⇒7月31日のコシヒカリの稲姿… **草丈：並、茎数：並、葉色：並**
- **登熟期～成熟期**：コシヒカリの出穂・開花期にあたる8月上旬までは、高温・多照で推移したものの8月中下旬は低温・少照となり、水稻の登熟は全般的に緩慢となった。
【8月第3～6半旬：日照時間 68.9h（平年比 54%）】
後発の弱小分けつからの出穂により、穂揃いが悪く成熟差が生じたことから、適期収穫の判断が難しく、早刈りによる青未熟粒混入で品質低下を招いた。
【青未熟粒による格落ち（全品種）：H29 8,217.7俵 H28 3,137俵】

【稲作期間気象図】



(2) 栽培上の問題点

平成29年産米の課題を振り返り、
次年度対策を検討しましょう！



- 「早すぎる播種～苗質低下」…徒長・老化 → 活着・初期生育の不良
- 「極端な疎植」…気象（低温・強風）の影響を受けやすい → 良質茎確保に時間がかかる
- 「中干し開始の遅れ～効果不足」…生育調節が不十分 → 軟弱茎増加・倒伏を助長
- 「水管理」…高温時に水がかかっていないほ場や、コンバイン収穫に合わせた水管理
- 「早刈り・刈り遅れ」…品種構成に問題 → 作期分散、稲作情報による収穫適期の判断
- 「雑草の発生」…初中期一発除草剤の散布遅れ、除草剤散布時・散布後の水管理不徹底
- 「病害虫の発生」…中生品種でのカメムシ被害拡大 → 雑草管理（本田内・農道畦畔等）・薬剤散布の不徹底、薬剤散布後の降雨による効果不足、紋枯病の多発生（→ 土壌等で越冬）

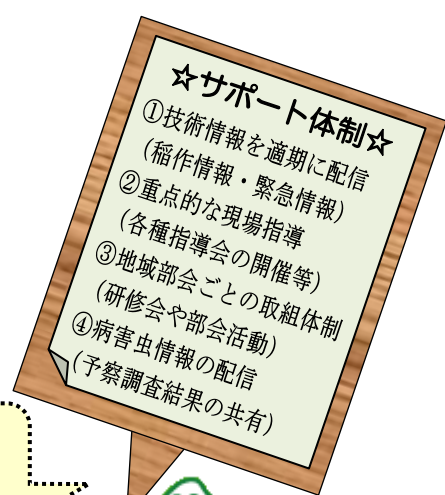
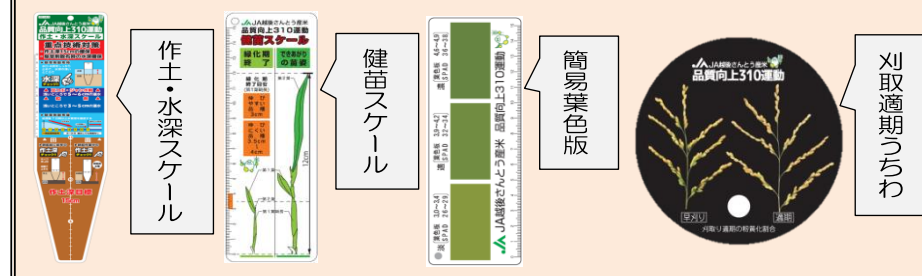
3. 平成30年産米：品質向上対策

平成29年産米については、①「6月の低温による分けつ発生の遅れ」、②「登熟期間の日照不足」等により、収量と品質を落とす結果となりました。稲作期間全般を通じて低温・高温を繰り返す激しい気象変動の影響を受け、品質・作柄を大きく左右する結果となっています。
『「気象変動に対応できる米づくり」→「安定生産」（高品質・安定収量の確保）に向けた重点技術対策の徹底実践』が最重要の課題となっています！！

平成30年産米の重点技術対策

- ★ **土づくり推進**
有機入り肥料 → 化成肥料が主体となる品種での生育後半の肥切れ防止
- ★ **健苗育成による初期生育の確保**
適期播種による健苗育成 → 徒長苗・老化苗の発生防止
- ★ **適正な栽植密度**
良質茎の早期確保・・・栽植密度60株の徹底
- ★ **収穫時期に合わせた栽培計画の策定**
適正な品種構成による早刈り・刈遅れの防止
- ★ **最終かん水の重要性**
早期落水による品質低下 → 登熟後期まで土壌水分を維持

☆ツールを活用した栽培管理☆



ツールやサポート体制を活用して、
“気象変動に強い高品質米産”を目指しましょう！

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～
平成30年産も『高品質・安定収量』の確保に向けて、引き続きご協力をお願いいたします！！